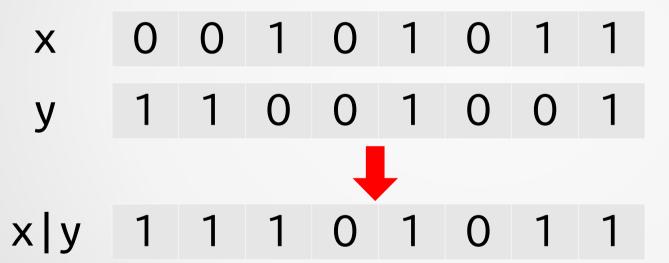
KMC1回生 prime(Twitter id:@\_primenumber)

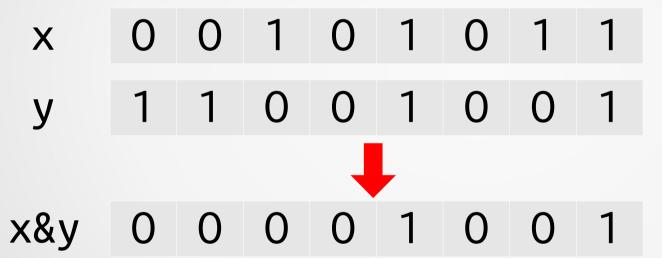
- コンピューター内で数値や文字列などのデータは2進数で記録されている
- ビット演算とは、2進数を0/1の列として操作するような演算のこと
- ビット反転 (C言語では ~x)
  - 各ビットの0/1を反転させる



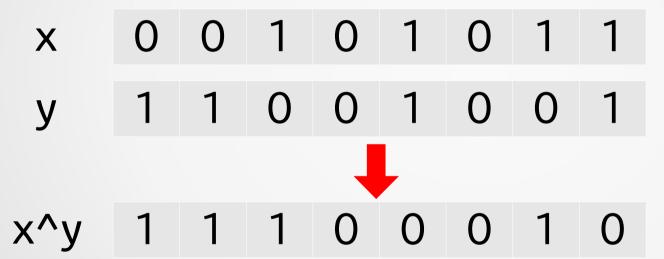
- ビット論理和 (C言語では x|y)
  - 各桁を比較して、少なくとも一方が1なら1



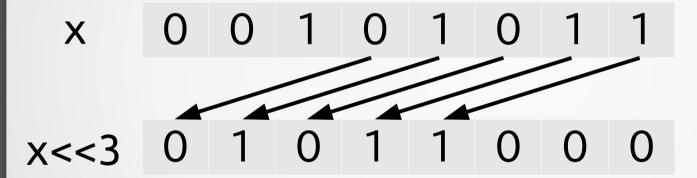
- ビット論理積 (C言語では x&y)
  - 各桁を比較して、両方とも1なら1



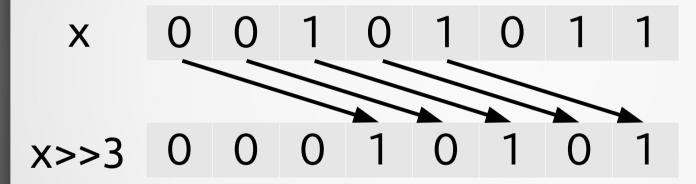
- ビット排他的論理和 (C言語では x^y)
  - 各桁を比較して、片方のみが1なら1



- 左ビットシフト (C言語では x<<n)
  - 各桁を左に指定した桁数ずらす



- 右ビットシフト (C言語では x>>n)
  - 各桁を右に指定した桁数ずらす



上位桁に何を詰めるかによっていくつか種類がある

- 0を詰める
- 元の最上位桁と同じ物を詰める

- ビット演算は回路が単純になるため、とても高速なことが多い
  - とはいえ最近のCPUだと加減乗算も同じぐらい速い
  - 組み合わせて使うことも多い
- うまく使うとものすごい高速化できる
  - 単純な実装に比べて数十倍速くなることも
- 今回はビット演算を用いていろいろな操作を高速にする例を 挙げます
- 数値は2の補数表現で格納されているものとします

- 「1になっている一番下の桁」を取得する
  - 2の何乗で割り切れるか,みたいなことが分かったりする

data

- 「1になっている一番下の桁」を取得する
  - 2の何乗で割り切れるか,みたいなことが分かったりする



「1になっている一番下の桁」を取得する data & (-data)

data 0 1 0 1 1 0 0 0 -data 1 0 1 0 1 0 0 0

実は、-dataは~data+1に等しい (足して0になるようにするため)

「1になっている一番下の桁」を取得する data & (-data)

data 0 1 0 1 1 0 0 0 0 -data 1 0 1 0 1 0 0 0

data & (-data) 0 0 0 0 1 0 0

実は、-dataは~data+1に等しい (足して0になるため)

• 「1になっている一番下の桁」を0にする data &= data-1

data 0 1 0 1 1 0 0 0 data-1 0 1 0 1 1 1 1

data & data-1 0 1 0 1 0 0 0 0

- 「1になっている一番上の桁」を求める
  - 数値のだいたいの大きさを求める
  - $-\log_2(n)$ の整数部分を求めるのに使える
- これは一発では行かないが、うまい方法がある

- 「1になっている一番上の桁」を求める
  - 数値のだいたいの大きさを求める
  - $-\log_2(n)$ の整数部分を求めるのに使える
- これは一発では行かないが、うまい方法がある
  - 二分探索!

• 「1になっている一番上の桁」を求める



• 「1になっている一番上の桁」を求める



• 「1になっている一番上の桁」を求める



1になっている一番上の桁は上位4桁のどれか!

• 「1になっている一番上の桁」を求める



• 「1になっている一番上の桁」を求める



1になっている一番上の桁は上位2桁のどれか!

- 「1になっている一番上の桁」を求める
  - サンプルコード(32ビット)

```
data = data & 0xFFFF0000 ? data & 0xFFFF0000 : data;
data = data & 0xFF00FF00 ? data & 0xF0F0F0F0 : data;
data = data & 0xF0F0F0F0 ? data & 0xF0F0F0F0 : data;
data = data & 0xCCCCCCCC ? data & 0xCCCCCCCC : data;
data = data & 0xAAAAAAAA ? data & 0xAAAAAAAA : data;
```

- ビット列を逆転する
  - 高速フーリエ変換などで用いる

data 0 1 0 1 1 0 0 1 dataの逆転 1 0 0 1 1 0 1 0

- ビット列を逆転する
  - これも一気にやるのは無理

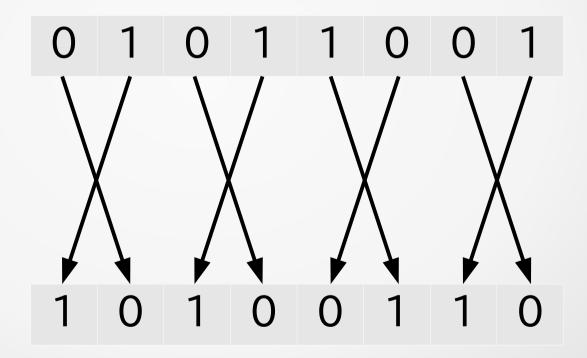
data	0	1	0	1	1	0	0	1
data&0x55		1		1		0		1
data&0xAA	0		0		1		0	

data	0	1	0	1	1	0	0	1
(data&0x55)<<1	1		1		0		1	
(data&0xAA)>>1		0		0		1		0

data	0	1	0	1	1	0	0	1
(data&0x55)<<1	1		1		0		1	
(data&0xAA)>>1		0		0		1		0
					トビ	ット訴	侖理和	
	1	0	1	0	0	1	1	0

• ビット列を逆転する

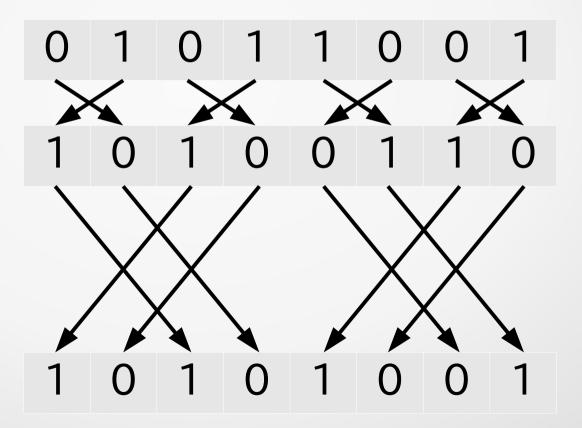
変更前のdata

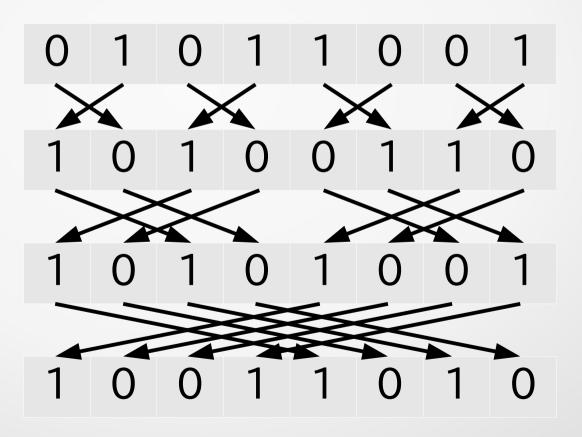


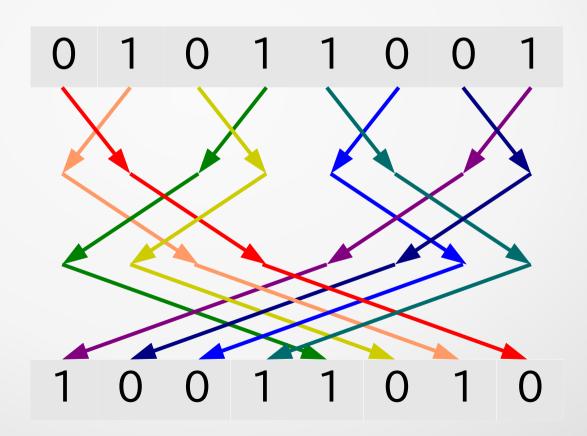
変更後のdata

	0	1	0	1	1	0	0	1
変更後のdata	1	0	1	0	0	1	1	0
data&0x33			1	0			1	0
data&0xCC	1	0			0	1		

	0	1	0	1	1	0	0	1
変更後のdata	1	0	1	0	0	1	1	0
(data&0x33)<<2	1	0			1	0		
(data&0xCC)>>2			1	0			0	1
	1	0	1	0	1	0	0	1







- ビット列を逆転する
- dataは32ビット符号なし型とする

- 1になっているビットの数を数える
- ビットレベルでハミング距離を取りたい時などに使う
- 素直な実装(int型を32bitと仮定)

```
int count = 0;
for (int i = 0; i < 32; i++) {
  count += (data >> i) & 1;
}
```

- 1になっているビットの数を数える
- ちょっと速い実装

```
int count = 0;
for(; data; data &= data - 1) {
    ++count;
}
```

data &= data-1で1になっている一番小さい桁が0になる

- 1になっているビットの数を数える
- ・ けっこう速い実装

10進数	2進数	1の個数
0	0000000	0
1	0000001	1
2	00000010	1
3	00000011	2
4	00000100	1
• • •	• • •	• • •
255	11111111	8

あらかじめ0~255までの数について1の個数を数えて配列に入れておく

- 1になっているビットの数を数える
- ・ けっこう速い実装

```
int count = 0;
count += table[data & 0xFF];
count += table[(data >> 8) & 0xFF];
count += table[(data >> 16) & 0xFF];
count += table[(data >> 24) & 0xFF];
```

table[256]: 1の個数が入った配列

- 1になっているビットの数を数える
- 配列を使った実装はけっこう速い
  - 素直な方法の20倍くらい

- 1になっているビットの数を数える
- 配列を使った実装はけっこう速い
  - 素直な方法の20倍くらい
- しかし、さらに倍くらい速い実装が存在する

1 0 1 1 0 0 0

各桁の0/1を「その桁の1の個数」と読み替えることができる

1個 0個 1個 0個 1個 0個 0個

各桁の0/1を「その桁の1の個数」と読み替えることができる











	1個	O個	1個	1個	O個	1個	O個	O個
	0	1個	1	O個	0	1個	0	O個
&0x33			1	O個			0	O個
&0xCC	0	1個			0	1個		

1個	O個	1個	1個	O個	1個	O個	O個
0	1個	1	O個	0	1個	0	O個
		1	O個			0	O個
		0	1個			0	1個



	1個	O個	1個	1個	O個	1個	O個	O個	
	0	0	1	1個	0	0	0	1個	
&0×0F					0	0	0	1個	
&0×F0	0	0	1	1個					





- 1になっているビットの数を数える
- かなり速い実装(dataはunsigned int型)

```
data = (data & 0x55555555)
     + ((data & 0xAAAAAAA) >> 1);
data = (data \& 0x33333333)
     + ((data & 0xCCCCCCC) >> 2);
data = (data \& 0x0F0F0F0F)
     + ((data & 0xF0F0F0F0) >> 4);
data = (data \& 0x00FF00FF)
     + ((data & 0xFF00FF00) >> 8);
data = (data \& 0x0000FFFF)
     + ((data & 0xFFFF0000) >> 16);
```

• こうして、苦労の末我々は爆速で1になっているビットの数を数 えるアルゴリズムを手に入れた!!!

- こうして、苦労の末我々は爆速で1になっているビットの数を数 えるアルゴリズムを手に入れた!!!
- しかし・・・

- こうして、苦労の末我々は爆速で1になっているビットの数を数 えるアルゴリズムを手に入れた!!!
- しかし・・・
- IntelのSIMD拡張命令セット、SSE4.2から、ズバリ「1になっているビットの数を数える」CPU命令が追加された!(popcnt)

- こうして、苦労の末我々は爆速で1になっているビットの数を数 えるアルゴリズムを手に入れた!!!
- しかし・・・
- IntelのSIMD拡張命令セット、SSE4.2から、ズバリ「1になっているビットの数を数える」CPU命令が追加された!(popcnt)
  - 実際ビット演算を使ったアルゴリズムより2倍ほど速い

- こうして、苦労の末我々は爆速で1になっているビットの数を数 えるアルゴリズムを手に入れた!!!
- しかし・・・
- IntelのSIMD拡張命令セット、SSE4.2から、ズバリ「1になっているビットの数を数える」CPU命令が追加された!(popcnt)
  - 実際ビット演算を使ったアルゴリズムより2倍ほど速い
- 我々の努力は無駄だった!!!!!

#### まとめと注意

- ビット演算はうまく使うととても高速
- ぱっと見何してるか判りづらいのでバグを埋め込みやすい
  - ものすごい高速化をする必要のないときは使わないほうが吉

#### まとめと注意

- ビット演算はうまく使うととても高速
- ぱっと見何してるか判りづらいのでバグを埋め込みやすい
  - ものすごい高速化をする必要のないときは使わないほうが吉
- CPU命令速い!!!!!
  - 本当に高速化したいときはまずこっちを考えるべき

# おわり